

# 平成30年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

平成30年8月20日作成

校長 飯野 芳重

記述者 教頭 岡 こずえ

## 学校教育目標

「やる気をもった人間性豊かな生徒の育成」

(1) 知・徳・体のバランスある4つの活動

「授業」「部活動」「合唱」「特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）」

(2) 日常生活を創る「4つのこだわり」

「あいさつ」「時間」「服装」「清掃」

## 平成30年度 取組重点

### 1 学習意欲の向上と基礎学力の充実を図る

- ・わかる授業（楽しい授業） ・基礎的・基本的な知識・技能 ・思考力・判断力・表現力
- ・学びに向かう力・人間性 ・確かな学力 ・授業規律 ・家庭学習 ・本が身近にある生活

### 2 「特別な教科道徳」の完全実施に向け、道徳教育の充実を図る

- ・他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性 ・豊かな心
- ・考え議論する道徳 ・22の内容項目 ・35時間の確保

### 3 生徒会活動における「4つのこだわり」の推進を図る

- ・あいさつ ・時間 ・服装 ・清掃

※なぜこだわるのか、なぜ大切なのか、意義付け、自治、自覚と成長

#### 達成のためのカギ

- ①見える化 ②徹底 ③取組ベクトルの一体化

## I 全体評価

※A：5点，B：4点，C：2点，D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお，生徒アンケートについては平均4.0を目標とした。

全18項目中17項目が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

4.5以上	17項目
4.4以上4.5未満	1項目
4.3以上4.4未満	0項目
4.2以上4.3未満	0項目
4.1以上4.2未満	0項目
4.0以上4.1未満	0項目

ほとんどの項目で目標とした4.5以上を得たことは，自分たちの実践が昨年同様，高い水準を保っているという評価しているといえる。全体的に見ると，「特別活動」の指導において，「あなたは生徒の自治力の向上を目指し，計画的な指導を行っている。」の項目については，目標である4.5に達しなかったが，2学期に学校行事が集中していることで，今後の取り組みで高評価になることを期待したい。また，「教科指導」の重点項目である道徳の指導において，目標の4.5には達したものの，まだ十分ではないと考えている教員もいる。来年度から「特別の教科 道徳」が中学校の教育課程において完全実施されることを考慮し，道徳主任を中心に学校全体で組織的に指導の充実を図っていきたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇領域平均は4.7であり、教職員は互いの協力体制のもと、学校教育目標の具現化に努力しているといえる。</li> <li>◇職務上の報告、連絡、相談、確認を行い、職場相互の信頼関係も概ね良好である。</li> <li>◇校務分掌や各種委員会等の組織の改良を積極的に行った。</li> <li>◇「道徳教育」については平均4.5で、昨年度よりも0.5ポイント上回った。校内研究会での学習会等を通して、教職員の意識が改善され、道徳授業の確実な実施に向けて、授業内容の向上を図ってきた成果といえる。</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりが学校経営方針を十分に理解し、前年度の成果と課題にもとづいた教育活動を生徒の実態に応じて相互に連携しながら推進していく。</li> <li>・学校全体の教育活動に対して、組織的に取り組めるような同僚性と協働性についての意識を高め、ベクトルを合わせて行動する。</li> <li>・各自が「出退勤記録票」をパソコンにデータ入力をするを日常的に行い、勤務効率を考えた働き方についてセルフチェックを行えるようにする。また、管理職が教職員のメンタルヘルスについて細心の注意を払うよう心がける。</li> </ul>
2 教科指導	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇教師アンケート⑤「あなたは基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」は4.8となった。</li> <li>◇生徒アンケートの④「学校の授業は楽しいですか。」⑤「学校の授業はわかりますか」⑥「授業中に先生や友達の話をしっかり聴くことができましたか」においてもABの肯定的回答が95%を上回っており高い評価となった。</li> <li>◇教師アンケート⑥校内研究会のテーマ「生徒が主体的に表現しあう授業の創造」のもと主体的、対話的で深い学びができるよう思考力・判断力・表現力等を養う工夫についての実践が積極的におこなわれた。</li> <li>◇全国学力・学習状況調査や学力把握調査の結果分析を行い、校内研究会において共通理解を図ることができた。</li> <li>◇教師アンケート⑦「あなたは学習の定着を図るため、計画的な家庭学習の手立てを行っている」においては教師の意識改革と組織的な取り組みが必要である。</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が発問を工夫し、生徒が自ら考え表現でき、楽しくわかる授業を実践することにより、生徒が達成感や充実感を味わえるようにする。</li> <li>・授業の振り返りを工夫し、学びをいかし、伝え、表現する力を育てる。</li> <li>・教師個人の力量を高めるための研修の機会を大切にし、研究校の公開授業に誘い合って参加できるような学び合う風土を醸成する。</li> <li>・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。</li> <li>・一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、同僚の授業を精力的に参観し、自分の授業にいかすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。</li> <li>・教育環境整備に努め、ICT活用を積極的に行う。</li> <li>・「学びの甲斐善八か条」を活用し、毎月8のつく日は家庭とも連携し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。</li> <li>・生徒の連絡帳（スマイルライフ、やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。</li> </ul>

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇平均得点は4.7で指標の4.5を上回り、⑧「あなたは問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決に努めている」の項目で特に高い評価となった。これは担任・学年・生徒指導等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。本校の「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していくようにする。</p> <p>◇生徒アンケート ③「困ったときに相談できる人がいますか。」についての結果は、全体的には4.5で、昨年度の同時期よりも0.1ポイント下回った。学年別に見ていくと、1年生4.2、2年生4.7、3年生4.6となっており、1年生の数値が低かった。</p> <p>◇不登校等のケース会議を関係機関と連携して定期的に行い、保護者の願いを丁寧に聴き取るよう心がけた。</p> <p>◇大きな問題につながる生徒指導がなく、未然防止の取り組みができた。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も教職員が相互に連携し、学校としてのきまりや指導重点について教職員が共通理解し、生徒の指導を行う。</li> <li>・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、心の教育を充実させたい。</li> <li>・小学生時期からの人間関係をひきつったままの生徒がいることや中1ギャップの現象がみられる。悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制は整っていると考えられるが、さらに生徒とのコミュニケーションをとっていくようにする。</li> </ul>
4 特別活動	
達成状況	<p>◇教員のアンケート結果は⑩「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」が目標とした4.5を若干下回っているが、生徒アンケートの⑦～⑨の特別活動の評価はいずれも4.6から4.8の高い評価となっている。</p> <p>◇生徒アンケートでは、すべての項目で教員のアンケート結果よりも高い肯定的評価であった。「生徒会活動」「行事への協力」「合唱活動」のいずれにも95%以上の生徒が意欲的に取り組んでいることがわかる。なかでも⑨「行事はみんなで協力して楽しくできていますか」⑨「合唱に意欲を持って取り組んでいますか」については、98%以上の肯定意見が回答されている。</p> <p>◇今年度は部活動についての設問を「積極的に」から「適切に」と変更した。その結果⑫「部活動の指導に適切に取り組んでいる」については、4.5という結果となった。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期は学園祭（桃響祭）をはじめ、生徒が主体的に取り組むことができる生徒会行事も多い。生徒一人ひとりの参画意識を高め、意欲や積極性を向上させる絶好の機会として、生徒の主体性を引き出す取り組みを計画的に工夫していきたい。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本でもある話し合いの活動を大切にしたい。</li> <li>・昨年度から毎週月曜日を「部活動なしの日」とするとともに、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」としている。また、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していく。</li> </ul>

5 健康安全 信頼される学校	
達成状況	<p>◇平均得点は4.7で昨年度の5.0から後退した。しかし、このことは教員の危機管理に対する意識が高まってきた結果ともいえる。</p> <p>◇熱中症対策や通学路の安全確保、登下校指導等きめ細かく指導を行った。</p> <p>◇毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行ってきている。</p> <p>◇不審者情報や非常変災に備えて学校安心メールに全家庭に登録していただいた。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を迅速に提供するよう心がけていきたい。</p> <p>◇職員会議や校内研究会の時間帯に顧問がつかない状態で活動していることがある。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の危険から身を守る行動」という言葉が連日のように報道されていたが、暑い中での諸活動実施の適否の判断をはじめ、生徒が体調不良を訴えた際の対応方針の確認等は危機管理上大変重要であることを認識する。</li> <li>・リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。</li> <li>・部活動の指導について、安全対策を検討していく。</li> <li>・「学年便り」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、それらを通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。</li> </ul>